

委員会報告

土木学会論文集をより身近な存在に ～電子化作業が終了して～



藤野陽三
FUJINO Yozo

論文集編集委員会
委員長(東京大学)



柄登志彦
TSUKA Toshihiko

論文集編集委員会
副幹事長・電子化検討 WG 主査
(大成建設(株))

土木学会論文集は発刊以来 60 余年を数えますが、土木工学の発展を基礎から支える学会学術成果が発表される最高峰の場です。本来は学会員すべての方に目を通していただきたいもの、少なくとも目に入る場所に置いておいただきたいものであります。

しかしながら、学会誌がすべての会員に渡るのに対し、学会論文集は会員の一部の方にしか届けられていないのが現状です。それは、論文集を購読する場合、会費とは別に購読費をお払いいただくからであり、実際の印刷部数は会員数の数十分の一に過ぎません。現在 7 部門から論文集が刊行されていますが、個人会員の場合、その購読費は一部門について年 4 冊で 4,000 円となっており、全部門を購入すれば 2 万 8,000 円となり、学会費の年会費よりもかなり高いものとなっています。一部の方しか購読されていないのもある意味では当然であります。

この 10 年の間に、土木学会内においても、速報性と専門性を売りにした、研究委員会ベースの査読付論文集が新たにいくつもが刊行されています。新しい学会も数多く誕生し、論文集が出されています。結果として、多くの学会論文集の例に漏れず、土木学会も論文集購読者数の減少が確実に進行してきておりました。

一方、土木学会会員の研究開発活動の旺盛さを反映して、土木学会論文集には数多くの論文が投稿され、毎年約 500 編の論文が掲載され、6,000 ページにも達しています。これは、同規模の他学会の論文集を上回るものです。しかし、掲載にあたっては、費用の一部を負担していただいております。その額は決して少ないものではありません。アメリカ土木学会論文集をはじめ、掲載料のない学術誌が内外に数多くあるのが現状です。

このような状況のなかで、抜本的な対応措置をとるべき時期にあると考え、2004 年 6 月から検討を重ね、その結果、インターネットを利用することによる論文へのアクセス性、および査読・掲載までの迅速性の飛躍的向上が将来的な方向と判断し、

- 1) 論文集を J-stage (独立行政法人科学技術振興機構内の科学技術情報発信・流通総合システム)に電子ジャーナル (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/doboku/-char/ja>) として掲載する。
- 2) 論文集購読会員、法人・特別会員は常時、閲覧できるようにし、その他の会員にも制限をつけてアクセスできるようにする。また、非会員にも、時間を置いて開放する。
- 3) 従来の紙媒体による論文集は CD-ROM 形式 [全部門論文収録] に切り替え、論文集購読会員、法人・特別会員に送付する。
- 4) 論文の投稿、査読プロセスを完全に電子化し、論文掲載までの時間を短縮する。

を実施することとし、作業を進めてきましたが(表-1)、それがこの 6 月をもって完了します。

電子ジャーナルは 2006 年 1 月からすでに刊行しており、今年度からは紙媒体の論文集の代わりに CD-ROM 版の論文集を配布します。電子投稿については 2005 年秋から開始しており、電子査読システムも 2006 年 6 月から導入します。

電子ジャーナルは、いつでもどこからでも論文を見ることができ、参考文献のクロスレファレンス(引用文献をその場で閲覧可能)、意中の論文の検索が容易、カラー写真・図表の掲載も自由など、メリットは多大です。ぱらぱらとめくって動向を知る、ちょっと持ち歩いて時間のあるときに見るといような印刷された論文集ならではのメリットを享受したい方には、少し高くなりますが、簡易印刷による論文集の有料配布にて対応しております。

電子投稿・査読システムの導入により、査読に要していた時間も短縮化されますし、投稿者が査読進行状況を常に把握できます。また、編集委員も詳細な査読状況をリアルタイムで把握できます。掲載が決定すれば、すぐに電子ジャーナルに掲載することができますので、それもあわせれば、平均 1 年を要している投稿から掲載までの時間を 2、3 ヶ月は短くできると予測しております。

学会事務の立場からいえば、最も大きな利点は、人手を減らせることです。年間 7,800 編投稿される論文を整理し、選ばれた 3 名の査読者に送り、その結果を担当委員が取りまとめ、著者とやり取りするという作業は大変なものです。査読者追加、再査読などいろいろな状況も出てきます。間違いがあってはいけない作業であり、かなり気を使います。現在、編集課の 2 名の職員がフルに担当し、各部門の幹事がかなりの時間を割いています。当面は過渡期であり、一

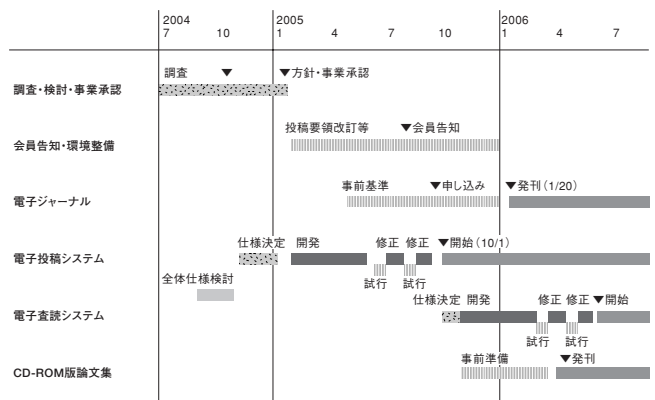


表-1 電子化までの道のり

時的な混乱もあって、事務量はまだ減っていませんが、軌道に乗れば、担当職員の業務量と幹事の負担も大幅に軽減されることが期待できます。論文掲載料の見直しも可能となるはずですが。

土木学会では学会論文集以外に委員会単位の論文集が数多く刊行されています。査読編集作業の大半は手作業で行っており、その事務に学会職員だけでなく、大学の若い先生ほか巻き込まれているのが実情です。人的資源を投入すべき課題が増えているなかで、事務負担が年々増大していることが今の学会組織の問題です。次のステップでは、ここで開発した電子投稿・査読システムを学会関係の論文集、シンポジウム講演集に広め、事務量の大幅な削減に貢献したいと考えております。

以上のように、論文集とその編集の仕組みを電子化により大幅に変えました。これは、器を変えたというのに近いかなと思います。これまでのように「印刷」や「紙」に縛られることがなくなりましたので、編集により自由度が生まれました。土木工学そのものの変化、国際化への対応など、論文集への期待、課題も多いことは深く認識しております。論文集そのものの内容については、編集委員会でこれまで議論してきたことをいろいろな形で盛り込み、より価値のある、会員の方に身近なものにする改革がこれから始まります。会員からのご意見をぜひお寄せいただきたく(edi@jsce.or.jp)、また、土木学会論文集へのご支援をお願いいたします。

最後に2年間にわたる大変な作業に熱心に取り組んでいただいた、学会編集課のメンバー、論文集編集調整会議、特に電子化検討WG

の委員、担当された(株)JPビジネスサービスの方にお礼を申し上げます。

土木学会論文集にかかわった方々(敬称略)

論文集編集委員会 電子化検討WG メンバー	
委員長	藤野 陽三 (東京大学)
WG 主査	柄 登志彦 (大成建設)
サブWG 主査	吉田 秀典 (香川大学)
委員	氏家 勲 (愛媛大学)
	浦瀬 太郎 (東京工業大学)
	藤原 健史 (京都大学)
	松本 高志 (東京大学)
	宮田 和 (清水建設)
論文集編集委員会 (オブザーバーとして)	
副委員長	椎葉 充晴 (京都大学)
副委員長	日下部 治 (東京工業大学)
幹事長	森川 高行 (名古屋大学)
幹事長	下村 匠 (長岡技術科学大学)

参考文献

- 1) 論文集編集委員会：土木学会論文集が変わります 一電子ジャーナル、CD-ROM化と投稿・査読システムの電子化一、土木学会誌、90巻7号 2005年 p.88-89

土木学会論文集名称の変更

土木学会論文集編集委員会

すでにご案内の通り、2006年1月から土木学会論文集は電子ジャーナル化しました。国内外の様々な電子ジャーナルサイト上の論文と相互リンクできるようにするために、各部門の論文集の名称を下記の通り変更することになりましたので、お知らせいたします。

土木学会論文集 第1部門 → 土木学会論文集 A	土木学会論文集 第2部門 → 土木学会論文集 B
土木学会論文集 第3部門 → 土木学会論文集 C	土木学会論文集 第4部門 → 土木学会論文集 D
土木学会論文集 第5部門 → 土木学会論文集 E	土木学会論文集 第6部門 → 土木学会論文集 F
土木学会論文集 第7部門 → 土木学会論文集 G	

■ 問合せ先：土木学会事務局 論文集編集委員会・係

TEL : 03-3355-3435 / E-mail : edi@jsce.or.jp